

平成二十九年度 群馬大学教育学部 推薦入試問題
国語専攻

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題に落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所があった場合は申し出てください。
3. 受験番号は解答用紙の所定の欄に必ず記入してください。
4. 問題冊子、下書用紙は持ち帰ってください。

次の文章を踏まえながら、集合知のシェアについて、あなたの考えを述べなさい。(四〇〇字以内)

大学の授業でいわゆる「コピペ」、他人の文章を自分のレポートなどに無断で丸写しする問題を取り上げた。STAP細胞の論文にそれと思われる箇所があったことがきっかけとなり、いま全国の大学で「コピペ問題」が語られていると思う。

学生たちもちろん「基本的にはコピペはしてはいけない」と言い、理由を問うと「自分で考える力がないから」「著作権侵害だから」などと話す。しかし、あれこれ議論するうちに「よく考えるとコピペはそれほど悪くないのでは」という意見も必ず出てくるのが興味深い。

「誰が考えても同じような文章になるような箇所は、時間節約のため前の人が考えたものを使ってもよいのでは」「完全にその考えに共感している場合、私と同じです」という意味でのコピペならありではないか」という具合だ。「自分で書いた下手な文章を読ませるより、コピペでちゃんとしたものを読んでもらうほうが親切」という意見には思わず噴き出しながら「なるほど」と納得しそうになってしまった。

いまの大学生の多くは、物心ついた頃からインターネットに触れてきた。そこには無数の情報や知識があふれており、多くが無料で提供されている。そうになると、もはやそれが誰のオリジナルなのかには、あまり関心がなくなる。というより、「このネット空間の情報や知識はみんなのもの」という感覚なのだろう。よく若い人は自分が撮った写真などをネットで公開して見てもらうことを「シェアする」と言うが、まさに情報や知識もシェアされるものと思っているのかもしれない。

今後、誰かのレポートや論文を丸写しして「コピペしたんじゃないですよ。ネット上にある知識の集積を『集合知』」というのを先生は知らないんですか？ 私はその集合知をシェアしただけです」などと言い張る学生が出てきたら、どうやって「それはいけないこと」とわかってもらったらよいのだろう。はじめ

に書いた側も「どんどんみなさんでシェアしてください」などと言い出したら、
事態はさらにやっかいになる。(後略)

(香山リカ「論文も『シェアする』時代？」毎日新聞二〇一四年五月十四日)